



雨よけハウス後作利用スナップエンドウの適品種

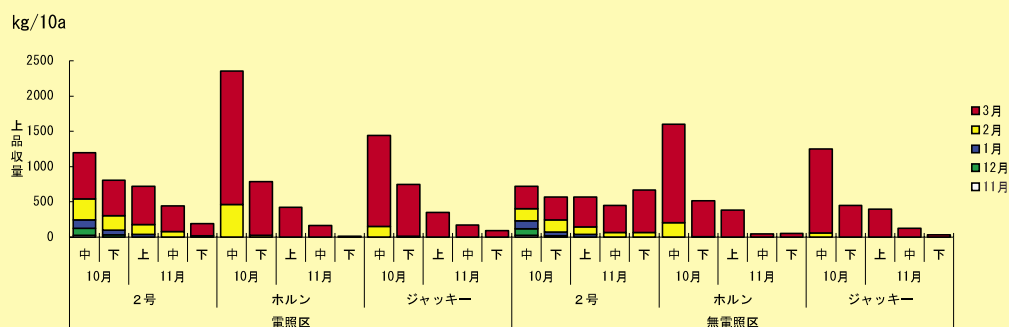


図1 品種における定植時期別上品収量(2006年)

- 注1) 播種日：2006年9月29日、10月10日、10月16日、10月24日、10月30日
 2) 育苗方法：72穴のセルトレイに播種
 3) 定植日：2006年10月17日、10月30日、11月6日、11月15日、11月24日
 4) 栽植様式：うね幅180cm×株間10cm(4株/m²)
 5) 電照方法：発芽から本葉2枚程度の育苗期間中(2006年10月6日から11月23日)、19時から6時まで、60分点灯、60分消灯を繰り返す間欠照明とした
 6) 収穫期間：3月31日まで
 7) 無加温2重被覆ハウス：屋根とサイドに0.1mm厚のポリフィルム、内張りに0.075mm厚のポリフィルムを使用

嶺北地域ではシシトウや赤ピーマン等の後作に、スナップエンドウを栽培していますが、単価の高い3月末までの収量が少ないことが問題となっています。

そこで、この作型に適した品種、播種日および育苗時の電照について検討しました。

供試品種は‘つるなしスナック2号’、‘ホルンスナック’、‘ジャッキー’とし、播種は9月29日、10月10日、16日、24日、30日に、72穴のセルトレイに行い、それぞれに育苗時の電照区(定植の前日まで)と無電照区を設けました。その結果、3月末までの上品収量は、電照処理を行った9月29日播種の‘ホルンスナック’が2,350

kg/10aと最も多くなりました。‘ジャッキー’は収穫期間中に、先端部分が内張りフィルムに当たって、折れ曲がり、収穫時の作業性が悪くなりました。9月29日播種の‘つるなしスナック2号’は11月中旬からの収穫が可能でしたが、3月末までの上品収量は、同じ条件で栽培した‘ホルンスナック’に比べ半分以下でした。

3月末までの収量を上げるためには、品種には収量性に優れる‘ホルンスナック’を用い、9月下旬にセルトレイに播種し、育苗時に電照を行い、10月中旬に定植すればよいことが明らかになりました。

(山間試験室 土居正博 0887-72-0058)

高知県農業技術センターニュース 第49号

平成19年10月1日

農業技術センター

〒783-0023 高知県南国市廿枝1100

TEL (088) 863-4912

FAX (088) 863-4913

農業技術センター山間試験室

〒789-0315 長岡郡大豊町中村大王3523-7

TEL (0887) 72-0058

FAX (0887) 72-1544

編集発行 高知県農業技術センター

所長 松本 満夫

果樹試験場

〒780-8064 高知市朝倉丁268

TEL (088) 844-1120

FAX (088) 840-3816

<http://www.nogyo.tosa.net-kochi.gr.jp/kikan/kenkyu/kaju/index.htm>

茶業試験場

〒781-1801 吾川郡仁淀川町森2792

TEL (0889) 32-1024

FAX (0889) 32-1152

<http://www.nogyo.tosa.net-kochi.gr.jp/kikan/kenkyu/sc/home/>

<http://www.nogyo.tosa.net-kochi.gr.jp/kikan/kenkyu/tya/index.htm>